



新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種の効果、安全性と注意に関して

- ◆**ワクチンとは** そもそも人間には菌やウイルスと戦うための機能(免疫)があり、1度戦った病原菌に対しては2回目には迅速に反応し排除するという免疫を強化する機構(獲得免疫)があります。ワクチンはこの獲得免疫を促すもので、わかりやすく例えるなら免疫にとってワクチンは「感染に対する安全な練習試合」といえるかもしれません。
- ◆**新型コロナウイルス感染症の有効性**
現在日本で使用されている新型コロナウイルス感染症のワクチンは、1回目の後3週間おいて2回接種するお薬です。この有効性に関しては世界中の研究で有効性が示されています。イスラエルで行われた120万人を超える研究では、発症を94%減らし(発症予防効果)重症化した患者も92%減らした(重症予防効果)と報告があります。これはインフルエンザワクチンの発症予防効果が40～60%ということ考えると、非常に有効なワクチンと考えることができます。発症の予防効果がいつまで続くかは研究段階ですが、少なくとも6ヶ月間は効果が期待されており、新型コロナウイルス感染症によく似たタイプのワクチンである重症呼吸器感染症(SARS)でのワクチンは2年以上の予防効果が報告されています。
- ◆**ワクチンの安全性** ワクチン接種で注意する事項としては、二つあります。一つ目はワクチン接種した直後のアナフィラキシーというアレルギー反応のものです。これはワクチンに限らず、どの薬剤でも反応が起こる可能性があります。ファイザー社のワクチンでは100万回の接種で4.7回のアレルギー反応が報告されています。インフルエンザの予防接種は100万回で1.4回と比べるとやや多く感じますが、例えば普段処方される抗生剤の多くは100万回に200回程度であり、新型コロナウイルス感染症のワクチンで特別多いわけではありません。アナフィラキシーの反応は30分以内に起こることが多いので、接種会場では十分注意して様子を見る必要はありますが、過度に怖がる必要はありません。2つ目はワクチン接種後、2～3日後に風邪やインフルエンザのような発熱、だるさや接種部位の痛みを伴うことがあります。1回目より2回目接種で反応が強いと言われ、若い方は反応が強くなるようで、多い報告では4割程度で37.5度以上の発熱があるようです。熱や関節痛、だるさや接種部位の痛みに関してはほとんどが2～3日で良くなります。つらければ解熱剤を使っても問題ありません。この症状に感染性があるわけではないため普段通りの感染対策で支障ありません。これは上にも書いた「免疫の練習試合」が少し盛り上がりすぎている状況といえるかもしれません。接種翌日は体を安静にできるよう予定を空けておきましょう。
- ◆**注意すべきこと** ワクチン接種に関して、花粉症や喘息、アトピー含め他のアレルギーをお持ちの方でも接種可能です。CDC(米疾病予防対策センター)の推奨では他のワクチンや食事でアナフィラキシーを起こしたことがあっても注意して接種していいとしております。ただし、1回目のワクチン接種で強いアレルギー反応が出た場合には2回目の接種を控えるよう推奨があります。授乳中や妊娠中の方、免疫不全患者やがん患者でもワクチン摂取自体は一般的には可能で、人によっては接種が推奨されています。ご不安な場合にはかかりつけ医に事前に相談ください。持病でワクチン接種を控えるよう、指摘された場合には、接触する家族が積極的にワクチン接種を行うなど環境を調整していきましょう。
- ◆**最後に** ワクチン接種は有効性、安全性ともに徐々に示されてきています。色々な情報に怯えすぎることなく、皆で協力して、もう少し我慢の日々を乗り越えて一緒に戦っていきましょう。
さんむ医療センターも集団接種の会場として皆様にご利用いただくこととなります。ご不安なことはお問い合わせくださいませよう、お願いいたします。

地方独立行政法人さんむ医療センター 総合診療科 曾我井 大地

☎ さんむ医療センター ☎ 0475 (82) 2521 (代表番号)